

出題のねらい

【I】は文法力と語彙力を問う問題です。標準的な学習事項が確実に定着されているかどうか問われています。【II】は長文空所補充問題です。ここでは文脈の正確な理解に基づいて適切な語を選択する力が試されています。【III】は会話問題です。会話の自然な流れを理解し、やりとりを適切に完成させる力が必要です。【IV】は長文読解問題です。自然環境に関する文章で、木の役割やそれを取り巻く状況などについて書かれています。文章の大意から、やや詳細な情報までを正確に整理して読み取れるかが試されています。【V】は正確な文法理解に基づいて基本的な英文を組み立てることができるかが問われています。

【I】

【解答】 (20点)

1	①	2	②	3	①	4	④	5	①
6	④	7	③	8	④	9	④	10	②

(2点×10)

【解説】

- (1) in order to do で「～するために」という意味。
- (2) Ever since…をヒントに、現在完了形が入ると判断する。
- (3) could hardly do で「ほとんど～できなかった」という意味。
- (4) 文脈から判断して④が正解。
- (5) those who… 「…する人々」に of you が入った形。
- (6) put emphasis on A で「Aを重要視する」という意味。
- (7) if の手前までから仮定法過去完了であると判断する。
- (8) a lot of time で「たくさん時間」という意味。
- (9) 文脈から、未来完了が入ると判断する。
- (10) out of the blue で「突然」という意味。

【II】

【解答】 (30点)

11	④	12	⑦	13	①	14	②	15	⑨
16	③	17	⑩	18	⑥	19	⑧	20	⑤

(3点×10)

【解説】

- (11) range from A to B ([範囲が]AからBにわたる) の、AとBの部分にそれぞれ複数の語が入った形。
- (12) what is/are called A で「～いわゆるA」という意味。
- (13) 手前の for は前置詞であり、この becoming は動名詞。
- (14) may have 過去分詞で「～したかもしれない」という意味。
- (15) have to do with A で「Aと関係する」という意味。
- (16) 文章の流れから、ここは追加の情報であると判断する。よって also が適切。
- (17) ここの where は in which と同じような意味。early morning programs についての説明を加えている。
- (18) discuss の過去分詞を入れて受け身を作る。
- (19) 文脈から考えて、譲歩を表す語が必要。
- (20) 直後に about があることが手がかりである。

【Ⅲ】

【解答】 (15点)

21	⑤	22	⑨	23	⑦	24	②	25	③
(3点×5)									

【解説】

- (21) there が何を指しているのかを考え、「そこに行きたい」と繋がるようにする。
- (22) So の前後がどのような内容であれば因果関係として繋がるかを考える。
- (23) 直後の Jane のセリフがヒントである。
- (24) 直後の It が何を指しているのかを考える。
- (25) travel arrangements の具体的な行動として「レンタカーの予約」が適切である。

【Ⅳ】

【大意】

木の消失を心配しないといけない理由は何だろうかと言えば、それはこの夏の記録破りの酷暑かもしれない。最近の研究によると、木は夏の日中の気温を華氏10度も下げることがあるのだ。

しかし、アメリカの街における木陰は減少している。昨年アメリカ農務省林野局による研究では私たちはこの5年で都市部から田舎の地域にまでわたり、年間3,600万本の木を失ったことが分かっている。2009年から2014年にかけて1パーセントの減少ということになる。このまま行けば、「街はもっと温暖化し、汚染が進み、一般的に住人たちにとってより不健康になっていきます」とアメリカ農務省林野局の主任研究員であり、その研究の著者の一人である David Nowak は言う。

Nowak は、樹冠が減少しているのには色々な理由があり、ハリケーンやトルネード、火災、虫、そして病気などが具体的に挙げられると言う。しかし、木が消失する理由のうち、人間のコントロールが関与するのは、顕著な発展である。「木陰が水などを通さない覆いにとってかわられています。写真を見れば、そこにかつてあったものが今では駐車場やビルになっています」と Nowak は言う。

アメリカの人口の80パーセントを超える人数が都会のエリアに住んでおり、ほとんどのアメリカ人が東海岸、西海岸の森林地域沿いに住んでいると Nowak は言う。

「道路を敷いたり、建物を建てたり、木を切ったりあるいは加えたりするたび、その場所が影響を受けるだけでなく、地域全体にも影響は及ぶのです。」その研究は大気汚染の軽減とエネルギー保存への木の役割という観点から木の損失を見積もった。損失額は1年あたり合計9,600万ドルに及んだ。Nowak は木が社会に与えるメリッ

トを10個挙げている。

**熱の削減:** 木は家やオフィスビル、公園、道などに木陰を与え、表面温度を下げてくれる。さらに、水を取り込んで蒸発させ、周りの空気を冷やしてくれる。「暑い日に木陰の下を歩いてみましょう。草の上だけではそうはいきません」と Nowak は言う。Proceedings of the National Academy of Sciences に掲載された研究によると、気温面でのメリットを全面的に得るなら、樹冠は涼しくしたいエリアの40%を超えなければいけないようだ。その研究の著者たちは「たった一つの街の区画であっても、枝や木などの緑の葉の網によって半分近くは覆われる必要がある」と述べる。

**空気汚染の軽減:** 木は炭素を取り込み、大気から汚染物質を取り除く。

**エネルギー排出量の削減:** Nowak の研究によると、木は一年で40億ドルものエネルギーコストを削減する。「建物に木陰があるとエアコンのコストが減ります。木を取り去ると、ビルは熱くなり、エアコンをさらに稼働させることになります。ひいては発電所の燃料をどんどん燃やし、汚染や排出が進むのです。」

**水質の改善:** 木は水のフィルターとして機能し、汚れた表流水を取り込んで、そして、土壌に窒素やリンを取り込む。

**洪水の減少:** 木は水を取り込んで川への表面流水を減らす。

**騒音の減少:** 木は音を屈折させることができる。ハイウェイでフェンス沿いや道路と近隣のエリアの間に木があるのはその理由の一つだ。さらに木の間から小鳥のさえずりや風のそよめきが聴こえるようになる。これらは心理的に利点があることが分かっている。

**紫外線からの保護:** 木は紫外線の96パーセントを吸収すると Nowak は言う。

**見た目の改善:** 不動産屋や建築家あるいは都市設計家に尋ねてみよう。木や葉っぱに覆われると物件の見た目がよくなり、価値があがるのだ。

**健康の改善:** 多くの研究で、自然にふれることと、よりよい精神的、身体的健康の結びつきがわかっている。これらの研究の結果、患者のために木が見えるようにしたり植物を植えたりする病院もある。自然に触れることで血圧とストレスホルモンが下がるという証拠に基づいて子どもや家族に自然の中での散歩を処方する医者もいる。さらに緑のあるエリアの近くに住むことと死亡率の低さを結びつけた研究もある。

**野生動物の生息環境:** 鳥はシェルター、食べ物、巣に木がなくてはいけない。世界的に、森は動物の命の多様性に寄与するところ大である。

## 一般入試／英語(後期)

【解答】 (20点)

26	②	27	⑤	28	⑦	29	⑧
----	---	----	---	----	---	----	---

(順不同OK) (5点×4)

【解説】

- ② 第二段落二行目と一致する。
- ⑤ 第五段落の内容と一致する。
- ⑦ 第八段落の内容と一致する。
- ⑧ 第十一段落の内容と一致する。

【V】

【解答】 (15点)

30	⑤	31	②	(5点)
32	①	33	④	(5点)
34	④	35	②	(5点)

【解説】

- (30)(31) when I was about to leave が正しい形。  
「私が出発しようとしたとき」の意。
- (32)(33) to make sure I can graduate が正しい形。  
make sure…で「確実に…する」の意。
- (34)(35) long will you be staying in が正しい形。  
未来進行形の疑問文。